

インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP)

- インパクト・マネジメント・プロジェクト (IMP) は、ESGやインパクトの測定・管理・報告に係る重要事項を議論し、世界的な統一基準の形成を目指す。
- IMPには、後述のGIIN、UNEP FI、IFC等も参加。

インパクトの考え方

- どのような活動にも人と地球環境へのインパクトがあることを前提とし、そのインパクトは5つの側面から把握する必要があるとしている。(右図参照)

インパクトの評価方法

- まず、投資先企業の環境・社会的課題(※)を5側面から把握。
(※) CO2排出削減、ヘルスケアサービスへのアクセス等。
- インパクトは、**A (害の回避) < B (ステークホルダーへの恩恵) < C (課題解決への貢献)**の順に大きくなり、進化したインパクト投資となる。
- その後、各課題のインパクト区分を基に、投資先企業のインパクト区分を特定。

インパクトの5側面

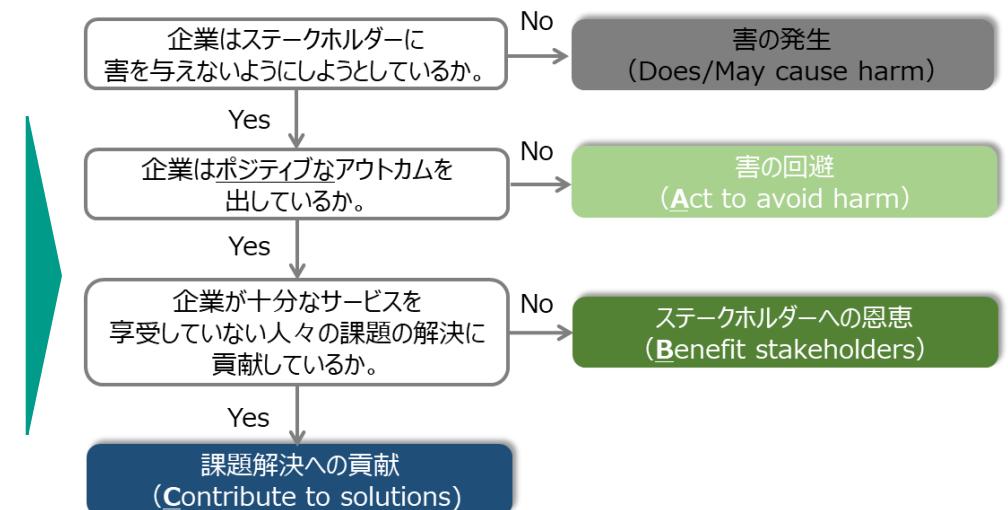
インパクト側面	各インパクト側面において問う事柄
□ 何を (What)	<ul style="list-style-type: none"> どのようなアウトカムが生じるか。 そのアウトカムはポジティブかネガティブか。 そのアウトカムは人あるいは地球にとって重要か。
○ 誰が (Who)	<ul style="list-style-type: none"> 誰がそのアウトカムを享受するか。 その人達はその恩恵を受けてこなかったか。
⋮ どの程度 (How Much)	<ul style="list-style-type: none"> そのアウトカムはどのくらい生じるか。(アウトカムを享受する人数、変化の度合い、アウトカムの持続期間など)
+ 企業の貢献度合い (Contribution)	<ul style="list-style-type: none"> そのアウトカムに対する企業の貢献は何か。どんな変化が生じるか。
△ リスク (Risk)	<ul style="list-style-type: none"> インパクトが予想通り生じなかった場合、どのようなリスクが人や地球にあるか。

出所) IMPホームページ、O. Prentice & L. Emme (2019) . IRIS+ and the Five Dimensions of Impact, p.12を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

<環境・社会的課題のインパクト評価>

インパクトの側面	各インパクト側面の評価結果				
	□ 何を	不明	重要でネガティブなアウトカム	重要でネガティブなアウトカム	重要でポジティブなアウトカム
○ 誰が	不明	様々	十分なサービスを受けない人々	様々	十分なサービスを受けない人々
⋮ どの程度・深さ・規模・期間	不明	様々	高度のポジティブな変化	様々	高度のポジティブな変化
	不明	様々	様々	様々	多くの人々に
	不明	様々	様々	様々	長期間
+ 企業の貢献度合い	不明	様々	これまでと同程度あるいはそれ以上	これまでと同程度あるいはそれ以上	これまで以上
△ リスク	不明	様々	様々	様々	様々
インパクト区分	害の可能性あり (May cause harm)	有害である (Does cause harm)	害の回避 (Act to avoid harm)	ステークホルダーへの恩恵 (Benefit stakeholders)	課題解決への貢献 (Contribute to solutions)

<投資先企業のインパクト評価>



出所) IMP (2018) . A Guide to Classifying the Impact of an Investment, p.7を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN)

- グローバル・インパクト投資ネットワーク (GIIN) は、ネットワーキングや情報交換、ガイドラインや調査報告書の発行、インパクト測定・管理ツールの提供等を通じてインパクト投資の普及促進を目指す。

インパクトの考え方

- インパクト投資とは、「**経済的なリターンをもたらすとともに、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である**」と定義。
- その上で、インパクト投資について、4つの主な特徴を提示している。(右図参照)

インパクトの評価方法

- インパクトの測定・管理を行うためのオンラインツール「**IRIS+**」を開発・運営。
- 「IRIS+」では、①**プロジェクトのカテゴリー/セクター**(エネルギー、農業等)、②**そのカテゴリーに紐づく戦略的目標**(エネルギーへのアクセス、エネルギー効率性等)を選択すると、**指標が自動生成される**。
- この指標は、IMPの5側面(WHAT, WHO, HOW MUCH, CONTRIBUTION, RISK)それぞれについて列挙される。
- 各指標は計算方法まで示され、比較可能性が担保されている。

インパクト投資の特徴

インパクト投資の特徴	詳細説明
意図	投資を通じて社会的及び環境的なインパクトを生み出すという投資家の意図がインパクト投資の最も重要な要素である。
金銭的なリターンを期待する投資であること	金銭的なリターンを生み出すことを期待しており、少なくとも元本の回収を期待している。
金銭的なリターンや資産の区分の幅	市場平均リターン以下からリスク調整後の市場平均リターンまでの幅の金銭的なリターンを生み出す。
インパクト測定	社会的及び環境的な成果や進捗を測定し報告することを表明している。

出所) GIINホームページを基にCSRデザイン環境投資顧問作成

(例) 戦略的目標「小規模エネルギー源からの有害物排出の削減」に関する指標

“WHAT”の指標	計算方法
販売製品によるGHG排出の削減	①販売製品の温室効果ガス削減目標の設定 ②総販売量の特定 ③既存製品のGHG排出量の計算 ④交換された製品のGHG排出量の計算 ⑤GHG排出削減量の計算
販売製品によるGHG排出削減のステークホルダーにとっての重要性	影響を受ける人々の観点から、販売製品によるGHG排出削減の重要性の説明

出所) IRIS+からの出力内容を基にCSRデザイン環境投資顧問作成

国連環境計画金融イニシアティブ (UNEP FI)

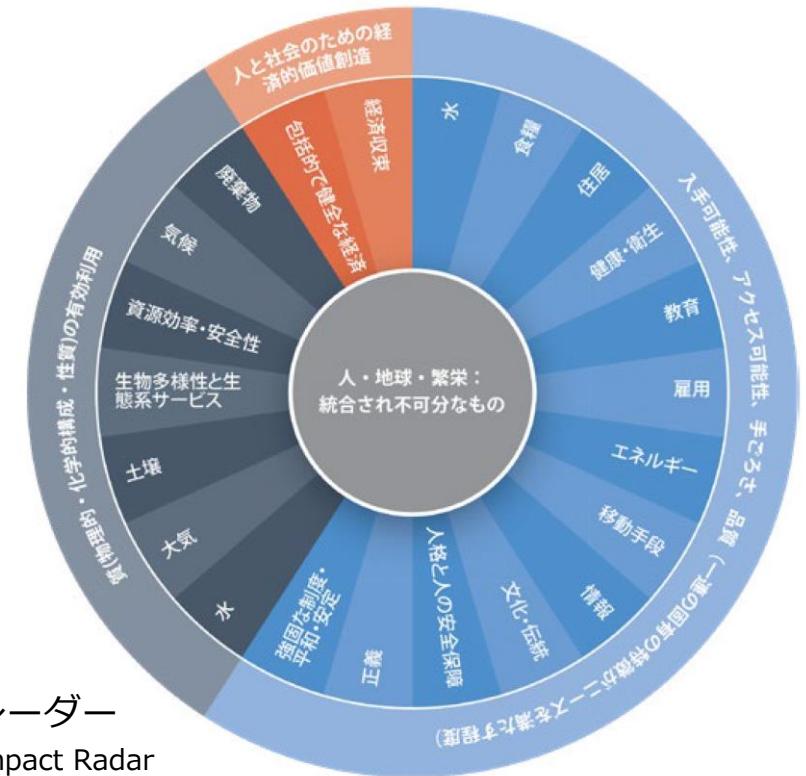
■ UNEP FIのポジティブ・インパクト・イニシアティブは、金融機関が意思決定において環境・社会・経済の3側面を検討し、総合的にどのような貢献ができるか (=インパクトを創出できるか) に焦点を当てて考案されたビジネスモデルの推進を目指す。

インパクトの考え方

ポジティブ・インパクト・マニフェスト (2015年)	SDGsの達成に向けて民間資金を調達するための新たな金融パラダイムとして「 ポジティブ・インパクト 」の概念を提示。 市場水準のリターンを確保するとともに「潜在的にネガティブな影響がきちんと特定・軽減されると、経済、環境、社会のうちの1つ以上の側面にプラスの影響を与える」とし、銀行をはじめとする金融機関に対し、SDGsの達成に向けて行動・価値観の変革を促す。
ポジティブ・インパクト金融原則 (2017年)	金融において「 ポジティブ・インパクト 」を創出するための共通原則。 持続可能な開発の3側面 (環境・社会・経済) について、ポジティブ、ネガティブの両面からインパクト評価を行う包括的な内容 になっている。
責任銀行原則 (2019年)	原則2「 インパクトと目標設定 」で実質的に「 ポジティブ・インパクト 」について言及している。

インパクトの評価方法

- 2018年にUNEP FIが開発した「インパクト・レーダー」で定義された22のインパクト・カテゴリーについて、ポジティブ及びネガティブなインパクトを検討し、案件が重大なインパクトを及ぼす領域を特定。
- 事前のインパクト特定、事後のインパクト測定 (モニタリング、報告等) の両方に活用可能。
- ビジネスの意思決定にインパクトの考え方を組み込むためのガイドやツールを開発・提供している。
 - 資金用途を限定しないモデルフレームワーク (2018年)
 - 資金用途を限定するモデルフレームワーク (2018年)
 - ポジティブ・インパクト不動産投資フレームワーク (2018年)
 - Impact Identification & Assessment for Bank Portfolios (開発中)
 - Impact Analysis for Corporate Finance & Investments (開発中)



インパクト・レーダー
出所) UNEP FI (2018). The Impact Radar
- A tool for holistic impact analysis, p.6

国際金融公社 (IFC)

- 国際金融公社 (IFC) は、投資のライフサイクル全体を通してインパクトの考え方を意図的に組み込むことを目指す。

インパクトの考え方

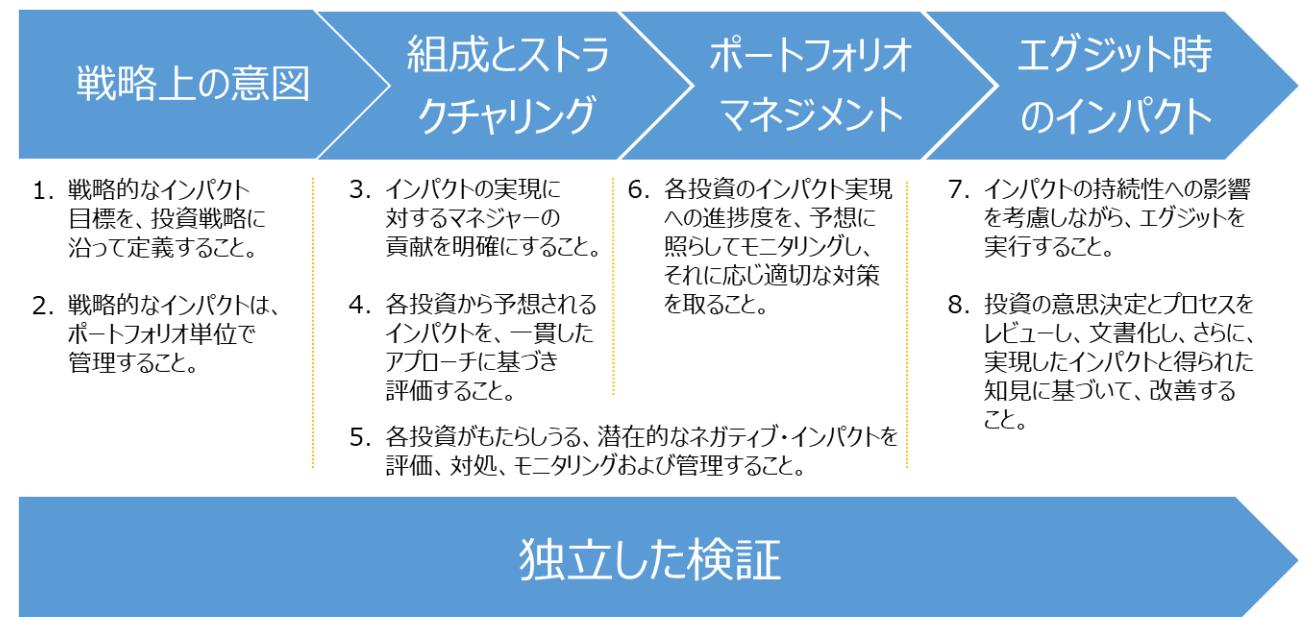
- インパクト投資の定義は、GIINの定義を引用。「**経済的なリターンをもたらすと同時に、ポジティブで測定可能な社会的及び環境的なインパクトをもたらす投資である**」と定義。**必ずしも財務的なリターンを犠牲にするものではない。**
- **インパクト投資の運用原則 (2019年4月)**
 - 経済的なリターンを追求すると同時に、測定可能な社会・環境へのプラスのインパクト実現に貢献する意図を持った企業・組織に対する投資を行う際の運用管理の要件を提示。IMPやGIIN等、既存のインパクト投資の取組に整合。
 - 投資プロセスを5つの主要素に分け、9つの原則を策定。(下図参照)

インパクトの評価方法

- 使用するインパクト評価の手法は、各金融機関に委ねられている。(IRIS+、GRI、SASB等)
- 署名機関は、年次開示を各機関のウェブサイト上で公表しなければならない。

<年次開示に含める事柄>

- ✓ 署名機関である旨の宣言
- ✓ 運用原則に準拠する資産の一覧と総額
- ✓ 各原則の投資プロセスへの組み込み方法の説明
- ✓ 運用原則への準拠の程度
- ✓ インパクト管理システムが運用原則に準拠していることに関する独立の検証報告書



9. 本運用原則との整合状況を開示するとともに、整合状況について、独立した検証を定期的実施すること。

インパクト投資の運用原則における投資プロセスの要素と原則

出所) 国際金融公社 (2019) 「インパクト投資の運用原則 参考和訳」 p.3